

その他の土木工事業における交通事故（道路）災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	12～13	車を停車していたとき、4t車に追突された。	50	—
1	18～19	現場より事業所へ社有車の軽自動車を運転し帰社する途中、県道の交差点を直進していたところ、左手脇道から出てきた2台目の車と接触した。身体に痛みがあったため、救急搬送となった。	53	—
1	11～12	本線路肩で非常電話の雪かきが終了し、車両（ワンボックス）の右後方部に、一般車（普通乗用）が漫然の運転により左側へ斜行し、作業員の持っているスコップ及び停車中の車両（ワンボックス）に接触・衝突した。	43～99	50
1	15～16	資材置き場まで2tダンプで運転中、丸パイプとコンパネとリン木（型枠材）を積んで移動している最中、4tトラックとの接触事故が発生した。	18	—
1	8～9	被災者は業務のため本社より現場に向かう為、自家用車にて左車線を走行していた。交差点にて信号待ちで停止していた所、右車線より車線変更してきた軽自動車は20～30kmの速度で被災者車の後方へ追突し、その衝撃で腰がしびれる様な感覚が生じた。	30～49	41
2	12～13	吹付工事現場から会社のトラックに搭乗し会社に戻る途中、S字カーブで運転手が脇見をしてしまい、高さ50cm程のブロック塀に衝突してしまい、その際の衝撃で負傷し、当日に通院した。	33	1～9
2	15～16	現場へ図面等を届けた帰り、本社に向かって社用車で走行中、目の前の信号が黄色に変わったため停止したところ、後方の右車線を走行していた相手車が、前方にいた右折の車を避けるために左側に車線変更をして、当方の車に追突した。なお、	30	1～9

		事故直後は、加害者は「（信号が変わったばかりだから）お宅の車がそのまま行くだろうと思った」と言っていたが、後から「青信号だった」と発言が変わった。		
3	8~9	従業員が運転するトラックで会社から作業現場に向かって移動中、トラック車体右側が中央分離壁に激突して交通事故を起こした。その際、助手席に同乗していた従業員がフロントガラスから投げ出されて重傷を負った。	26	30 ~ 49
4	19~ 20	被災者他3名は作業終了後、職長が運転する社有車で帰宅していた。主要地方道を走行中、信号の無い交差点で前方車両が右折待ちで停車していたので、続いて停車したところ、後方より追突された。職長が咄嗟にブレーキを踏んだため前方車両には接触しなかった。全員に外傷なし。	30	10 ~ 29
6	16~ 17	現場から会社へ帰社途中、トンネル内にて、対向車線をはみ出して来た車に追突され被災した。	38	10 ~ 29
6	15~ 16	県道（路上）にて、買い物後、工務店資材センターへ帰社している時、突然加害者Aの車両がセンターラインを越えて、工務店Bの車両に正面衝突する。被災者は、助手席にてシートベルトをしていた。事故後、病院へ救急車にて搬送される。入院はせず、整形外科へ通院する事となる。	41	10 ~ 29
7	8~9	駐車場入口にて測量作業の待機中、一般車両から相手の過失により正面衝突された（人対車）。	59	10 ~ 29
7	16~17	現場から自家用車で事務所に戻る途中、交差点を青信号（矢印信号）で直進していた。前方右側から自転車に乗った70代の男性が南側から斜めに横断してきたため、視界に入らず、ブレーキが間に合わなかった。自転車は赤信号にて交差点内に進入した。	25	30 ~ 49
7	5~6	作業現場へ25tラフタークレーンで向かうため、県道を走行中、左側に寄っていることに気づかず、左側路肩に左前タイヤが落ちてしまい、ブレーキを踏んだが間に合わず、左側にクレーンが大きく傾き、そのまま土手下に転落し、負傷した。救急搬送され、肋骨・尾てい骨の骨折と診断された（自損事故）。	54	10 ~ 29

9	14～ 15	廃棄処理の草を運搬中に前方停止直前の4tダンプに後方からの2tダンプが速度減速しないまま追突した、2tダンプに乗車（運転手）していた。	57	1～ 9
9	17～ 18	工事現場での作業終了後、会社のトラックで帰社中にバイパスを走行中、センターラインを越えて、対向車と正面衝突し、死亡した。	66	1～ 9
9	15～ 16	トンネル内でミニタイヤショベルを回送中、後方から普通乗用車に衝突され、主に、頭、首等を打撲した。	37	10 ～ 29
10	8～9	交差点において、現場に向かって走行中、右折して来た車両（コンクリートミキサー車）が信号を無理したため衝突してしまい、頭部損傷によりドクターヘリで搬送された。	37	50 ～ 99
10	15～ 16	公道にて掃除作業中に、相手のトラックが後進し後方の不注意により、ブロック塀とトラックの間に挟まれ負傷した。相手は後方に誘導員を配置しておらず、気づいた時には、挟まれていた。カラーコーンは後進時に気づいていた。	68	1～ 9
10	15～ 16	社有車で営業のため向かっていたところ、眠くなったため引き返し、会社へ戻っていた途中で居眠りにより道路を斜行し、ブロック塀とガードレールに衝突し被災した。	68	300 ～ 499
11	6～7	安全サークル活動の一環として、当社手持ち工事安全パトロールで移動中、タイヤがスリップし、ガードパイプを突き破って、車ごと落下してしまい骨折等の怪我を負った。	45	10 ～ 29
11	14～ 15	勾配のきつい下り坂で、除草作業中に停車させた作業車が、サイドブレーキが不十分で動き出してしまい、停車させようと運転席側に回ったところ、作業車に轢かれた。	73	1～ 9
11	11～ 12	現場施工完了後、現場で発生したガラと余剰合材を運搬する為、加害者が3tダンプの左後ろの歯止めを撤去した。その後、マニフェストの受け取りと次の現場の場所を確認する為、ダンプ付近で打ち合わせをしたが、次に向かう現場の地図が無く、被害者が現場の場所を個人スマートフォンにて調べていた模様である。加害者がダンプに乗り、バックさせる際にダンプ後方でしゃがみ込んで会社のスマート	25	1～ 9

		フォンにて電話をしながら、個人のスマートフォンで場所を調べていた被害者に気付かず後進し、ダンプの下に巻き込んで被災した。		
11	7~8	会社の場内で、始業時の打ち合せ場所に集合するため歩いていたところ、前方に停止していたトラックが急発進してきたため、左前輪に轢かれ足を負傷したものである。	76	1~9
12	12~13	土砂流出災害により、国道を片側交互通行にして土砂撤去作業を行っていた。交通誘導員の昼休憩のため被災者と現認者が誘導を交代した。その後、進行してきた軽乗用車が作業中の右手法面に気をとられ停止合図に気付かず、被災者と接触した。	67	10~29
12	14~15	現場からの帰社途中、自動車の後部座席に同乗中に、運転手の脇見運転により、右カーブを直進し、歩道の縁石に乗り上げてガードレール支柱に衝突した。	37	1~9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html